

5. 下流基準地点での効果推定値

下流基準地点である東沓部地点では、9日の出水による最高水位は、2.99m、流量は約214m³/sでした。

ダムが無かった場合の水位は、約4.72m、流量は、約635m³/sと推定されます。

(東沓部ピーク時の岩屋ダム直下流の馬瀬川第二ダムからの馬瀬川への放流量は、約1m³/s。)

ダムの貯水容量内に洪水を貯留することによって、東沓部地点で約1.7mの水位低減効果があったものと推定されました。

※東沓部地点 岩屋ダム下流約9.3km、飛騨川本線合流前約7.5kmの地点
住所：岐阜県益田郡金山町東沓部字前田会津1458

6. 配布先

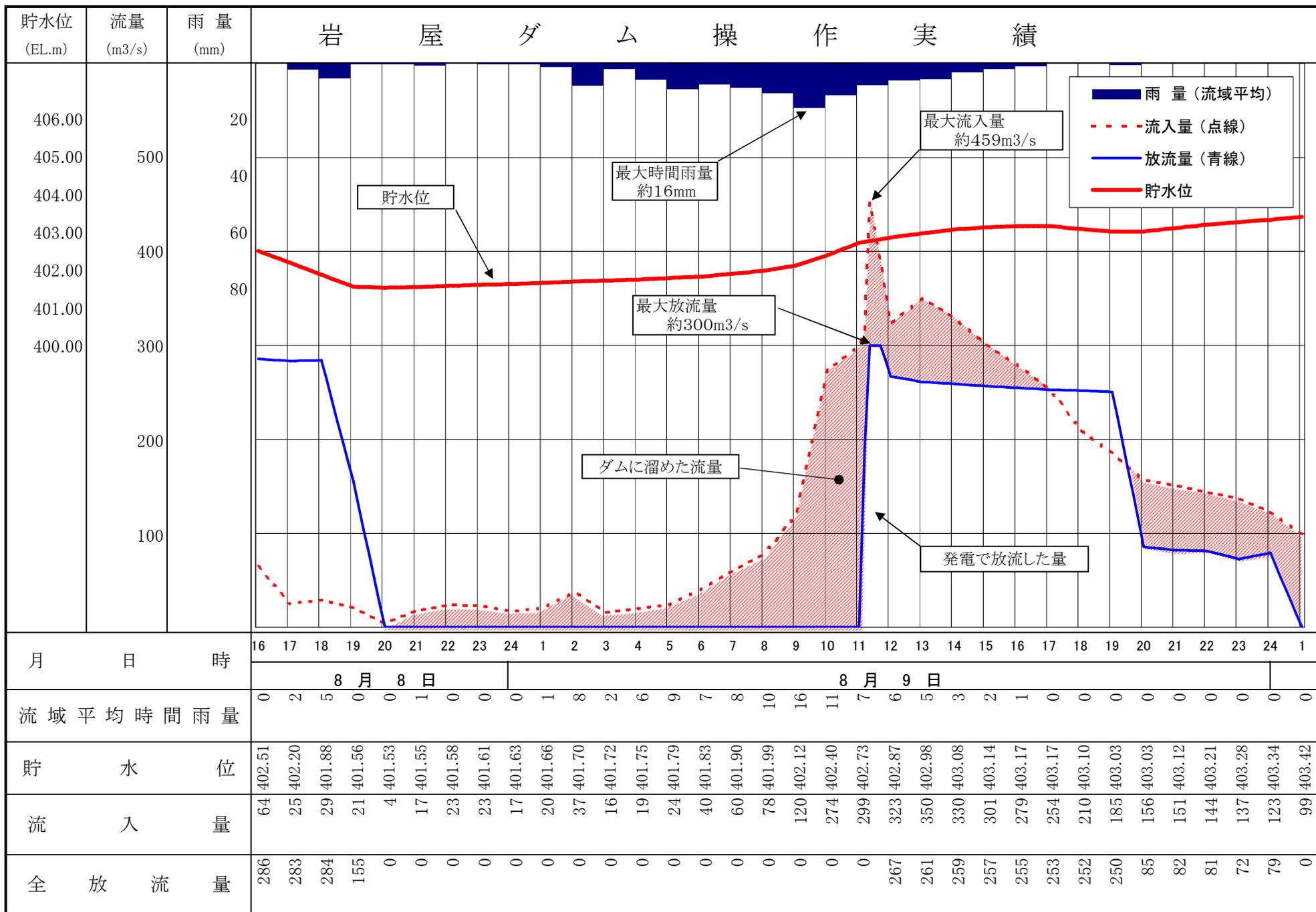
中部地方整備局記者クラブ

岐阜県政記者クラブ

7. 問い合わせ先

水資源開発公団 岩屋ダム管理所 管理課長 滝沢 元一
電話 0576-35-2339

国土交通省 中部地方整備局 木曾川上流河川事務所
流水調整課長 大塚 康司
電話 058-251-3234



岩屋ダムの洪水調節状況(東沓部地点)

左岸

右岸

岩屋ダムが無かった場合に想定される水位 TP250.72m

今回の出水による水位 TP248.99m

ダムによる水位低減効果

約1.7m

TP 246.00m

※東沓部地点:岩屋ダム下流約9.3km、飛騨川本川合流前約7.5kmの地点
(住所:岐阜県益田郡金山町東沓部字前田会津1458)

